

令和5年度 第1回伊東市子ども・子育て会議 議事録

日時 令和6年3月19日（火）15:00～16:45

場所 伊東市役所 8階大会議室

出席者 委員10名、参与2名、事務局6名
(欠席 委員3名)

開会

新任委員紹介

教育長挨拶

本日は、伊東市子ども・子育て会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。保護者の皆様、教育関係者の皆様におかれましては、日頃から子ども・子育て施策へのご理解、ご協力いただきましてありがとうございます。

今年度は国の大きな動きとして、4月に子ども家庭庁が発足いたしました。国や社会の形を「こどもまんなか」へと変えていく司令塔として作られた新しい組織です。それに伴って、すべてのこどもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる社会を実現するための法が施行されました。

伊東市においても幼稚園給食がまずは1園から始まり、放課後児童クラブの環境整備、また、待機児童の解消といった取り組みが進んでいます。

そのような中、令和6年度の幼稚園、保育園の園児数の見込は減少傾向にあり、昨年度との比較になりますが、幼稚園は50人程度、保育園では35人程度の減少が見込まれており、少子化の影響は大変大きなものがあります。また、0歳児保育や医療的ケアのニーズもあると聞いております。

本日の子ども・子育て会議は、関係委員から広くご意見をお聞きし、本市のニーズに対応した子ども・子育て施策の展開を図っていくことを目的とした審議機関であり、本日の議題は第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査の実施についてであります。今後、本市に求められる子育て支援策を考える上で大変重要になってまいります。委員の改選に伴い、新たなメンバーにもご参加いただいております。本市の子育て支援策が更に推進していくよう、皆様の活発なご意見をお願いし、私からのあいさつとさせていただきます。

1 議題

(1) 会長の選任について

※ 委員の中から、教育部長の委員を会長に推薦する発言があり、異義なく選任された。

(2) 子ども・子育て支援事業計画について

ア 令和6年度幼稚園・保育園入園状況について（資料①）

イ 令和5年度地域子ども・子育て支援事業の実施状況について（確定）（資料②）

※ 事務局から資料①、②を説明

会長 説明についてご質問等がございましたら、ご発言をお願いいたします。

委員 資料②の(6)番、子育て短期支援事業は実施個所が3か所となっていますが、次期の計画も実施箇所は3か所を維持しつつ、支援が必要なケースがあれば計画の利用人数にかかわらず受入れていくという考え方でしょうか。

事務局 令和4年度から新規でショートステイを受入れてくれる施設があったため、実績は計画より増え3か所となっております。受入れ箇所が増えておりますので、今後対応できる人数は増えると考えております。

会長 他にご質問はありますか。

[意見なし]

ないようでしたら、子ども・子育て支援事業についての審議は終わらせていただきます。

(3) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について（資料③）

ア 前回調査との比較（主な変更点・重点等）

※ 事務局から説明

会長 事務局からニーズ調査の趣旨や実施方法などについて説明がありました。また就学前児童向けアンケートにおきまして、前回調査項目との比較による説明に加え、少子化や地域性による要因からも保育ニーズの傾向を分析できるよう、設問を変更したとの説明がありました。アンケート項目から、主な変更点、重点等を取り上げて説明がありましたが、議題3におきましては、これらの項目に関わるご意見や、その他、前回との比較に係る質問項目全般につきまして皆様からご意見を伺いたいと思います。

保護者が実際に預けたいと思う時期に必要なサービスがあると感じることができているか、本アンケートを通じて状況を把握し、次期計画に反映していきたいといった趣旨を踏まえまして、皆様から忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。

委員 表現の方法などは変更が可能でしょうか。

事務局 表現等の修正は、今後業者とのやりとりの中で十分修正が可能ですが、ここでは施策の中身についてご意見を頂戴できればと思っております。

会長 このニーズ調査は、次期計画策定に向けた重要な調査となりますので、保育現場の立場として、市内で唯一の認定こども園を運営されている川奈愛育クラブの委員、また副会長という立場ですが、保育園園長会代表である鈴木副会長からご意見を頂戴したいと思いません。

委員 ニーズ調査についてご説明いただきましたが、設問が多く内容も濃いので、答えていただくのに相当時間がかかるだろうという印象です。それから、私ども認定こども園ですが、幼稚部の入園を希望される方が、ここ2、3年伸びておりません。しかも、入園後に保育部へ移動を希望される方、仕事を求める保護者が大変多く、この調査では保育園を求める

回答が多くなるのではないかと考えています。

また、ニーズ調査は広く意向を聞くということではありますが、伊東市全体がどのような子育て支援の道筋を描くのかが見えるような設問であると、答えに結び付けやすいのではないかと印象を受けました。

副会長 自分自身でアンケートをやってみましたが、やはりボリュームがあるなという印象です。例えば父親が回答する項目から、産休や産前産後休暇が関係する項目に斜線をして省いておくなど、少しでも回答しやすくすると余裕がでるのではないかと考えました。それから、少し話がずれてしまうかもしれませんが、子育て支援センターが宇佐美保育園にもありまして、1 ページ目の保育サービス等の内容に「親子が気軽に集まることができる場」と説明がありますが、宇佐美の支援センターは就園児の利用ができませんので、そのあたり付け加えてもらえると後で誤解がないのではないかと考えました。

事務局 確かにアンケートのボリュームがあるというのは、実際回答して感じておりますので、質問の内容については余分な部分を省略し、わかりやすいものになるよう今後検討してまいります。

委員 平成 31 年に実施した集計結果を踏まえての次期子ども・子育て支援事業計画になってくると考えますが、新たなニーズ調査を実施するにあたって、前回の結果に対して伊東市がどのような取組を行ったのかということが書かれているとよいのではないかと考えます。また、調査票の 1 枚目に保育サービス等の内容が説明されており、“実施していないサービスを含む”とありますが、実施しない事業は記載せず、代わりに実施しているサービスの説明を掲載すると、初めて子育てされている方にとっては非常にわかりやすいのではないかと考えました。

保育園では市長を交えたタウンミーティングのために、保護者からアンケートをとり、届けた多くの意見に対して、伊東市に対応をしていただいたものもあると聞いています。ニーズ調査が行われる際には、園の保護者だけでなく、市民や子育て中の方に、伊東市の子育て支援の取組がわかるような内容であるといいと考えました。

事務局 この 5 年前のニーズ調査結果を受けて、市がどのような取組をしたのか、また新たな 5 年間のニーズ調査を行う上でそれを踏まえるということを再度検討していきたいと考えます。

前回調査を実施した 5 年前の第 2 期、そのさらに 5 年前であり、計画のスタートであった第 1 期の時は、かなりの待機児童がおりましたが、おそらく基本的な調査内容は 10 年前と変わっていないと考えます。保育ニーズについては、調査をランダムに行うのではなく、全数調査を実施することに大きな意味があります。そのうちの取組の一つとして、当時の伊東市の弱いところであった、乳児、いわゆる 0、1、2 歳の保育ニーズに対して、小規模保育所を整備し、受け皿を増やす計画を立ててきたというのが、1 期からの経過としてあります。

第2期であるこの5年間では、保育園でのニーズに対する必要数を何とか確保しながらこれは公表しておりますが、令和5年4月1日現在、当市において待機児童は0人となっております。この結果は、計画においてニーズを把握し、保育の必要な量を計画的に確保している成果の現れであると言えます。ただ、この先の5年は、果たしてどのようなニーズが数字として現れてくるのか、例えば、0歳の保育ニーズが極端に増えていくのではないかなどといった事を把握しながら、この限られた時間の中で新たな政策を展開していくということが、どこまでできるかわかりませんが、今日参加していただいている委員の方々には、この計画が非常に重要なものであるということをご理解いただきたく、1期から3期までの流れとして説明させていただきました。

委員 「小学生児童のいる世帯」のニーズ調査表の8ページの間22に、「支援やサービスの内容を知っていたり、利用したことがあるか」との設問がありますので、表紙の裏1ページ目のおもな教育・保育サービス等の内容のうち、幼稚園からベビーシッターまでの小学生児童の利用には該当しないサービスの掲載をやめて、その代わりに設問22に出てくる、家庭児童相談所や、子ども食堂、フードバンクなどについての説明を掲載するのはどうかと思いましたので、ご検討下さい。

イ 今回の新設項目

※ 事務局から説明

会長 小学生向けアンケートにつきましては、子供の貧困対策についてと、子供の居場所作りについての説明を加え、現状把握と今後必要な支援サービスを図るための基礎資料としたといった説明が事務局からございました。将来の不安や悩みを抱えている世帯や、安心して過ごせる場所があると感じている子供がどのくらいいるのかなどを把握し、次期計画に反映していきたいといった趣旨を踏まえまして、皆様からのご意見を頂戴したいと思っております。

委員 「子どもの居場所づくり」というのは昔から言われている聞きなれた言葉ではありますが、「居場所」という言葉について、例えば県のホームページを確認すると、「こども一人でも安心して過ごし、無料または低額で利用できる地域の居場所」となっていて、場所を指しています。一方、子ども家庭庁では、「こどもが安心して過ごすことができる場」と記されておりました。調査表の9ページ問25は、「お子さんが通っている小学校は、子どもが安全に安心して過ごせる、子どもにとって大切な居場所の一つであると思えますか」という設問は、居場所の捉え方によって回答が変わってくるのではないかと思います。

単純に“子どもが安心して過ごせる学校ですか”という問いだと考えれば、学校は教員の対応や子ども同士の関係という心情的な捉えになりますが、友達の家や、習い事や塾といった場所のうちの一つと捉えるのでは、回答が違ってくると思います。この設問で、学校が子どもにとって安心できる場所なのかを聞いて、その結果を学校に戻してもらうことは良い事であると思いますが、聞き方や言葉は検討していただいた方がよいのではない

かと思いました。

事務局 ご指摘どおり分かりにくいところがありますので、今後検討させていただきたいと思えます。

委員 調査の実施は4月中旬とのことですが、新学期が始まったばかりで、まだ居場所としての認識をするのはこれからなのかなという意味で少し気がりではありません。

会長 スケジュールにつきましては学校と相談して進めさせていただきます。では、小学生の居場所ということで、放課後の保育に携わっていらっしゃる放課後児童クラブの運営代表である委員、ご意見ありましたらお願いいたします。

委員 調査表のうち、Fの、「お子さんのいる家庭の生活状況について」という項目は、子どもの貧困のこういった部分を見るよう設問が考えられているのでしょうか。

事務局 問19～24までが該当する設問となっておりますが、意図としまして、問19は、介護や介助が必要な状況を聞くことにより、昨今のダブルケアやヤングケアラーといった問題に関連した設問となっております。問20は、親御さんの悩みや困りごとを把握することにより、今後の相談事業に繋げていくための設問としています。問21は、子ども家庭庁の発足により新しい事業が増えていく中で、求められている事業の目安にするための設問としています。問22は、子どもの貧困に関係するサービス等の認知がされているかについての設問であり、問23では、家庭のおよその経済状況を把握したいと考えています。また、問24は、金銭的な子育て支援の利用状況を把握するための設問となっております、最低限の聞き取り内容ではありますが、以上となっております。

事務局 補足ですが、委員からご指摘いただいた、「小学生児童のいる世帯の生活状況」に関する設問について、本日配付いたしました5年前のニーズ調査の集計結果報告書をご覧くださいと思います。

5年前にも学校を通じてニーズ調査を行っておりますが、今回は、就労状況や子育て環境について調査をしていく中で、どちらかというと放課後児童クラブのニーズ調査がメインの項目となっております。ここでの調査結果を、放課後児童クラブの量の見込に反映させ、待機児童を出さないよう取組を行ってきたところです。

先ほどご質問をいただいた、家庭での生活状況や居場所といった内容は、今回伊東市が取り組んでいく新たな項目となっております、この調査結果を踏まえ、貧困や子どもの居場所等について子ども・子育て支援事業計画として一体的に作っていく事が、今後の伊東市の大きな取組となっていくという点を、前回調査との比較として補足説明させていただきました。

会長 ただいま事務局から説明がありましたが、その部分も含めまして、何か他にご質問等あればお願いいたします。

[意見なし]

ないようですので、議題(3)「イ 今回の新規項目について」はここまでとさせていただきます、次に移ります。

ウ 今後のスケジュールについて

※ 事務局から説明

会長 説明は以上になりますが、議題(3)全体を通して何かご発言等ありましたらお願いいたします。

特にないようでしたら、1時間半を超えてまいりましたので、これだけは言いたいという委員がいらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。

[意見なし]

それでは、まとめたいと思います。こども大綱に沿った設問も取り入れていきながら、次期計画策定に向けたニーズ調査を実施することについて、本日幅広い観点から意見をいただきました。以上で、議題(3)「第3期子ども・子育て支援事業計画に向けたニーズ調査について」の審議を終わらせていただきます。

(4) 私立幼稚園の利用定員見直しについて (資料④)

※ 事務局から説明

会長 事務局からの議題(4)の説明につきまして、ご質問等ありましたらお願いいたします。

[意見なし]

(5) その他

会長 議題(5)として、その他に移りたいと思います。事務局から何かありますか。

事務局 事務局からは特にございませぬ。

会長 委員の皆様から何かありますか。

副会長 保護者から質問をいただくのですが、公立の認定こども園の進捗状況はどうなっているのでしょうか。保育園と幼稚園の先生たちの交流なども含め、今実際行っている事など、現段階で教えていただきたいと思います。

事務局 認定こども園の必要性については子ども・子育て会議でも議題の中で議論をいたしました。伊東市教育委員会としまして、令和4年5月に、伊東市立幼稚園保育園の再編及び認定こども園整備に向けた基本方針を決定しておりまして、少子化や施設の老朽化、それから保護者ニーズを踏まえて、今後、公立の幼稚園、公立の保育園は全て可能な範囲で認定こども園化を推進するという方針となっています。統合再編して、保護者が働いていても、働いていなくても利用できる認定こども園化を進めていくという考え方です。

進捗としましては、令和6年度になりますが、幼児施設連絡調整協議会という、こども園などの施設を新たに設置するための諮問機関を立ち上げます。協議会はいろいろな関係者の中で構成されるのですが、設置に向けてこの協議会の審議に諮り、どのような回答をいただけるのかにもよるのですが、その内容によっては、令和7年度以降、建設などの具

体的な設置に向けた動きを進めていく、そのような形で見込んでいるところです。

ですので、現時点でどこに何を作るといったところまでの明確な決定というのはまだされておりませんが、動きとしましては少なくとも来年度、設置に向けた協議を行う諮問会議が開かれ、そこで具体的な話し合いが進められるというところです。

副会長 保護者としては、保育園、幼稚園のいいところを取って作っていただきたいという思いを持っています。浜松には保育園に隣接して、法人が経営しているカフェや子育て支援ひろばなどが複合した施設があるそうです。伊東市には、子育て中の保護者同士が、小さいお子さんと一緒に集まったり、利用したりできる場所や施設が少ないので、そこに行けば誰かに相談できるような、親子が集える場所を作っただけだと、子育てに優しい伊東市になるのではないかなと思います。

会長 他に何かありますか。

[意見なし]

ないようですので、これをもって進行を事務局に返します。

事務局 本日は、長時間にわたる審議誠にありがとうございます。

会議予定時間ちょうど、ということで、進行へのご協力ありがとうございました。最後に事務連絡をさせていただきます。

先ほどの会議の中でも触れましたが、ニーズ調査は本日の審議内容を継承した形で、時期については学校ともよく相談した上で実施し、次年度にこの会議で調査結果を報告して、計画の素案とします。委員の皆様は、現在の任期が令和6年7月31日までとなっておりますが、計画は来年度までに作らなければなりませんので、来年度以降に調整させていただきます。

以上をもちまして本日の会議を閉会とさせていただきます。皆様お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。

閉会